

# 緑窓



青山学院中等部緑窓会会報

第11号

2002年(平成14年)5月1日発行

青山学院中等部緑窓会 発行人 白井 茂  
〒150-8366 東京都渋谷区渋谷4-4-25

電話/FAX 03-3498-5387

## 駅伝の「たすき」のように

緑窓会会長 白井 茂(六期)

また「緑窓会の日」が近づいてきました。今年は十三期の皆さんが大変張り切って下さって、青学講堂に歌舞伎を呼んで来てしまおうと云う、だいそれた事が実現するようです。

その「緑窓会の日」の終了をもって、私の任期が終り、後任の会長は五月の役員会で選ばれる事になっています。

緑窓会の会則では、役員に二期四年の最長任期が定めてあって、全ての役員が定期的に交替する仕組みになっています。

この事は、会則改正の時にも、会長就任の時にも書かせて頂いたので、一部の人達だけで無く、出来るだけ多くの会員に

同窓会の運営に参加して頂けるようにとの精神から来ています。緑窓会の会員は、現在十五歳から六十八歳まで居る訳ですが、会の運営の中心が着実に若返っていかねければなりません。

緑窓会はずべてボランティアで成り立っているのです、一部の人々にあまり永くご負担をおかけする事のないよう、次を担う若い方々の参加が待たれます。

これから緑窓会の運営に携わって下さる方々も、駅伝の「たすき」のように、それぞれ自分の受持ち区間を全力疾走したあとは、次の世代に確りと引継いで頂きたいものと思います。

## 第十三回「緑窓会の日」平成十四年六月一日(土)

総合プロデューサー 市川團十郎(堀越夏雄)

今年の六月一日に行われる「緑窓会の日」は、私達十三期が当番なので、私が携わっている歌舞伎の世界、また日本の伝統文化の世界から何か発信できないかとの相談を、十三期の幹事さん達から受けました。私自身、緑窓会が何であるかを知りませんでした。幹事の方々から、青山学院中等部卒業生達の会であり、青山学院校友会の組織の一端を担っている事を知り、自分の無関心さに恥じる思いを致しました。しかし、私のような卒業生が多くいらっしゃるのではない

か、ならば私のような無関心な卒業生を啓蒙し緑窓会の存在を少しでも多くの方々に知っていただき、卒業生が共有したそれぞれの青春

を思い、そして今この中等部の学び舎で学んでいる後輩達に対しても緑窓会の意義と意味を理解していただくことは、大切なことであると感じ、是非今回の催しのお手伝いをさせていただきたいと思

ました。

幸い十三期の卒業生の中には、河村君(中村梅玉)、井上君(尾上松助)と同じ歌舞伎に携わる仲間がおります。二人にもお願いし、この機会に同窓生や在校生の方々に歌舞伎をご鑑賞いただき、歌舞伎の楽しさ面白さを肌で感じていただくよう解説も付け加えた舞台を、お二人のご協力をもとに制作させていただきました。

二十一世紀の日本人々が直面しなければならぬ、文化的変化に対して如何にあるべきかを、今回の「親と子の歌舞伎鑑賞公演」を通して皆様方にあらためて考えていただき、日本の伝統文化のあるべき姿に思いを廻らせていただければ幸せと思います。

また同窓生の組織である緑窓会が文化的発信を行うことにより、より多くの同窓生の方々に緑窓会の存在とその意義を知っていただく絶好の機会となるよう、関係の方々と一緒に努力し、この催しをが母校の発展の一助に成れば身に余る光栄と存じます。なにとぞ皆様のご協力の程を伏してお願い申し上げます。



「緑窓会の日」に

参加させていただいて

十三期 中村梅玉(河村順之)



桜の花の季節  
になると入学式  
のニュースが流  
れます。青学の

門をくぐってから何年経ったでしょうか？

知らぬ間に幼稚園から高等部までお世話になった娘も社会人になりました。

緑窓会のお知らせを頂きながら、いそがしさに伺いもせずにおりましたところ、今年は十三期生が企画し開催する当番と伺いました。幸い我が同期生には、まとめ役の堀越君等らがあり、呑気者の私は号令で動くだけで、準備などにはあまりお役にはたちませんが喜んで参加させていただきます。

在学中から先生方や友人達に励まされて続けてきた芸の道、その歌舞伎で緑窓会にそれも、同期の仕事仲間と一緒に協力出来る事を嬉しく思っております。

今後とも学院で学んだ精神を忘れずに、自分の進むべき道をひたむきに進んでいきたいと存じます。

「緑窓会の日」によせて

十三期 尾上松助(井上新也)



緑窓会の皆様、いつも応援有難うございます。子供の時から歌舞伎の世界に入

り、もう五十年近く経ちましたが、今思うと中等部にいた頃が変声期で、舞台出演も少なかったので、学園生活を一番エンジョイできた時期でした。

今回は、堀越さん、河村さんと一緒に参加することができ、又、私の長男(尾上松也)も出演させて戴く事になり、大変嬉しく思っています。これからも歌舞伎に親しんでいただければ幸いです。

中等部時代の三人



堀 越 河 村 井 上

第十三回「緑窓会の日」

平成十四年六月一日

十三期 実行委員長 小池 操(増田)

代表幹事 中川光子(杉山)  
代表幹事 塩坂暁子(永井)

本年度の「緑窓会の日」は新装なった、「ガウチャーホール」のチャペルにおいて、青山学院院長深町正信先生の説教による礼拝で始まります。青山学院の精神を伝承していこうとしている緑窓会が、素晴らしい礼拝堂で「緑窓会の日」を迎えられる事に感謝しています。

第二部の青学講堂で行われる歌舞伎公演「三人吉三」は、総合プロデューサー堀越氏のリーダーシップのもと、花道等本格的な舞台の設営、主演三人、脇役の俳優、歌・三味線・鳴物すべて歌舞伎座での公演と同じ舞台を皆様にお見せできることになりました。

費用の点で伝統歌舞伎保存会に、俳優の皆様は松竹株式会社のお力をお借りしました。

現役の学生にもっと歌舞伎を身近に感じて欲しいと無料席も設けました。歌舞伎ワークショップとともに多くの皆様のご参加を心からお願い申し上げます。

「緑窓会の日」の御報告

実行委員長 十二期 中村典幸

二十一世紀になって初めての「緑窓会の日」は、今迄と趣向を替え、青学講堂での礼拝と音楽会、青学会館での懇親会を企画致しました。

第一部の礼拝は、司式を棟居牧師に、司会は一期の飯久保氏に、オルガンは十二期の紙谷が担当致しました。

その折、例年通り「チャントミットへの献金」を集めました。今年には二十万円集まりこれはチャントミット社に送りました。この度司式をお願いした棟居牧師は、この活動に熱心に貢献されています。



一昨年、棟居先生がタイのコロニーに訪問

## ご挨拶



院長 深町正信

中等部緑窓会が今年も開催されますことを心からお慶び申し上げます。

私たちは「故郷」という言葉を聞きますと、心に何か深い感慨を覚えます。青山学院卒業生の皆様にとって、母校は青春時代の豊かな「故郷」ではないでしょうか。皆様がまさに青春のただ中を過ごされた青山キャンパスに久し振りに帰って、昔の仲間たちとお互いに安否を問い、楽しく過ごされることを真に喜ばしく思います。

今回は昨秋9月に完成した ガウチャー メモリアル チャペルで礼拝を共にすることになっています。又、そこに新しく設置されたスイス製のパイプオルガンの奏楽により、学生時代のように一緒に賛美歌をうたいます。どうか皆様が礼拝にご参加されるようお勧めいたします。そして引き続き青学講堂において、今、日本文化を代表する歌舞伎界の重鎮として大活躍をされている卒業生市川團十郎丈、中村梅玉丈、尾上松助丈の公演もあり期待されます。誠に幸いな一日となることでありましょう。

## 『緑窓会の日』開催のご案内

今年の「緑窓会の日」ユニークです。是非お出かけください。

素晴らしい礼拝堂に生まれ変わった「ガウチャーホール」で懐かしい賛美歌を歌いましょう。

多感な青春時代をここ青山学院ですごした私達が、鮭が生まれ育った川に回帰するように

1年に1度『緑窓会の日』に集い、青春時代に戻りませんか？

今回は特に緑窓会の文化的活動を促進するため、卒業生・現役生だけでなく

多くの方々にも知っていただく企画に致しました。

13期の歌舞伎俳優、市川團十郎・中村梅玉・尾上松助のご協力を得て「三人吉三巴白浪」の一幕を上演致します。

この顔合わせの「三人吉三」は必見です。

皆様に参加していただく「歌舞伎ワークショップ」では歌舞伎をもっと身近なものに感じていただけることでしょう。

ご家族・ご友人お誘いの上、皆様のご参加を心からお待ちしています。

### 記

日 時 / 2002年6月1日(土) 午後1時30分～

内 容 / 1. 礼拝 ガウチャーホール 午後1時30分～

司 会 飯久保 廣 嗣氏 (1期)

説 教 深 町 正 信 先生 (青山学院院長)

オルガン 大 島 百合子氏 (13期)

2. 歌舞伎公演・ワークショップ 青学講堂 午後3時～

出演 市川團十郎・中村梅玉・尾上松助

1部 親と子の歌舞伎鑑賞公演「**三人吉三巴白浪**」

2部 「歌舞伎ワークショップ」ワークショップってなに？

あなたも参加して体験してみませんか？

3. 懇親会 アイビーホール青学会館「サフランの間」 午後5時～



ガウチャーホール

された際は、緑窓会の十年続けた献金を記念して、八期の門田さん、鳥居さんが同行させて頂きました。礼拝につぐ講演では、その折りのお話も聞かせて頂き、私達の献金が有意義に使われていることも解り、今後も続けていこうと気持ちを新たにしました。丁度日本でも、ハンセン病の裁判の朗報が報じられた時であり、感慨深いものがありました。

第二部は、青山学院大学グリーンハーモニーOB合唱団の爽やかな歌声。我々の世代にとって懐かしい歌が多く、楽しいひとときを過ごすことが出来ました。

第三部は、青学会館での懇親会。思いがけずたくさんの先生のご出席を頂きました。会場いっぱい各期の卒業写真を貼り出し、その周りで美味しい料理と、少々のアルコールに若やぎ、当時の懐かしい思い出話の花が、そこで咲いたようです。

梅雨空を懸念していましたが、約三百名の参加を頂き、和やかなうちに終了致しました。皆様の御協力に心から感謝致します。

# 中等部時代の部活の思い出ばなし

## シリーズ 1

### 演劇部

今回から始める部活の思い出シリーズの、第1回は演劇部（S40年代）です。この企画の為に集まり頂いた卒業生たちは、中等部時代そのままに活発で、現在を生き生きと暮らしていることが、本当によく解りました。

これから、いろいろな部活のあの頃を振り返って行きます。「うちの部のあの頃」というお申し込みを喜んで取材させていただきます。広報まで御一報を！

#### 昭和四十年代の演劇部



佐藤文則先生

文ちゃん  
（佐藤文則先生）  
の元に集まった演劇部の面々は、夏休みも土日も

返上で、芝居づくりに熱中。基礎訓練、大道具、照明、メイク、衣装と、すべて本格派を目指し、中学とは思えないほど質の高い演劇部だった。多分この時代が演劇部の黄金時代だったのではないかなあ…。

文ちゃんは高校時代、俳優の小池朝雄氏などと一緒に演劇をやっていた。演劇をやるうか美術をやるうか悩んで結局、美術の道を選んで芸大へ。その後も東映の撮影所に入ったりしていた時期もあり、先生になつてからも、そんなアウトローの匂いを感じられた。青学を一年半休職してパリ大学に留学したこともあった。その時、ヨーロッパ、モロッコ、アフガニスタンなどを放浪した文ちゃんは、その頃のスライドをよくみんなに見せてくれた。見たこともない異国の写真を見ながら聞く、文ちゃんの放浪の旅の話は、中学生の私達にとつて特別の世界だった。

てめえら、甘ったれるんじゃないねえ！  
男子生徒に「鬼の文ちゃん」と怖がられ、顔を合わせるだけで、男子はびくびくして震え上がっていた。授業中

も、よく白墨をはじめいろんな物が飛んで来た。忘れ物をすると工作室のまわりの草むしり。いつも機械油の付いたつなぎを着ていた。お腹のそこから出る「てめえら」の声は、ドスが利いていて迫力があつた。演劇部の時も、先生が後ろで睨んでいるだけで、練習の空気が変わった。客席の暗い中に、文ちゃんの白いつなぎがボーッと浮かぶと緊張した事を思い出す。

演劇部では優しい顔も、温かい顔も見せてくれたけれど、何と言つても文ちゃんのイメージはギョロリとした眼光の鋭さにつきる。

#### 休日返上の稽古

朝は始業前に発声練習、昼休みはもちろん、放課後もこつそり夜遅くまで隠れて練習した。

今から考えると、よくそこまでやってたと思うが、当時は楽しくて少しも苦にならなかつた。先輩達が稽古を見てくれたり、夏合宿に参加してくれたりと卒業生との交流が続くのも演劇部の結束の固さ。当時大学生だった川野コーチや岡野コーチが、文ちゃんと唾を飛ばしあつて激論していた姿も懐かしい。

学生紛争が華やかだった頃のこと、学校のまわりで紛争があるので早く下校するように言われたが、こつそり残つていて校門を閉められてしまった。高等部の扉を乗り越えて、スカートの裾を破いたこともあった。

#### 玄人はだしの舞台美術

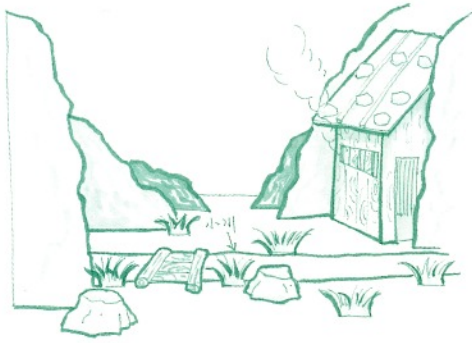
ベニヤ板と小割で大道具を組み立てた。うどん粉と水を練つて濃さの違う二種類の糊を作り、濡らした新聞紙をその糊でビシッと表面に貼り付ける。その上から泥絵の具を塗るのだが、これも膠を湯煎にして溶いたものを色の粉に混ぜ合わせて作る。膠の量を間違えると色が乗らない。絵のうまい人がかなり複雑な背景も描いた。

ある時は井戸から本物の水を出そうと、舞台の上でドラム缶を仕込み、そこから水を引っ張ったりと、工夫したものだった。さすがに「技術家庭」の先生だったので、金槌の持ち方から徹



文化祭「イワナガ姫物語」左より、加賀美英子、江連真紀子、一色孝子、林由美子

本格的な舞台装置



みんなの隠れ家

演劇部が占領していたのが工作室。作業台のある広い教室と、ソファやテレ

底的に仕込まれた。少しでもガタつく  
と作り直しをさせられ、それだけ出  
来上がったものは、玄人はだしたったの  
ではないか、と自負している。

谷崎潤一郎の「白狐の湯」の時は、舞  
台に川や湯治場の小屋を作った。小  
屋のまわりに本物のススキを植え、湯  
治場の湯煙を出すために、ドライアイ  
スをバケツに入れて、小屋の窓から煙  
を出した。ところが、ドライアイスだか  
ら煙が床を這って上に上らない。仕方  
がないので、芝居の初めから終わりま  
で、ずっと団扇でドライアイスを扇ぎ  
続けたのも良い思い出である。

ビのある文ちゃんの部屋。丁度屋根裏  
部屋といった感じの部屋には、演劇部  
の大道具や、ロングドレスから着物まで、  
衣装がぎっしり置かれていた。

この文ちゃんの部屋には、生徒ばか  
りか先生方もよく集まってはコーヒー  
を飲んだりして、中等部の中の別天地  
だった。舞台の打ち上げで、鍋をやる  
事になり、足りない調味料をこっそり  
調理室に忍び込んで拝借した事もあ  
る。

公演

なるべく部員みんなが舞台上が  
れる様に、公演回数は年に七、八回。  
芝居が終わると胸に穴が空いた様に  
寂しくなる。その寂しさを紛らす為に  
次々と芝居をやった。

クリスマスページェント

当時アメリカ帰りの笹森建美先生  
が宗教主任に就任し、次々に新しい企  
画がたてられた。ちょうどその頃、新  
講堂が完成し、第二回目のクリスマスペ  
ージェントをやることになり、これを演  
劇部が全面的にバックアップ。それが現  
在の基礎になっていて、やり方は今も  
当時とほとんど変わっていない。

文ちゃん一家の誕生

ほとんど休部状態だった当時の演  
劇同好会を、文ちゃん浅やん(浅井義  
継先生)コンビが十五期の川野さん達  
を集めて復興させた。まだ講堂がなか

った頃は体育館や技術室に仮設舞台  
を作って公演していた。文ちゃんは男  
子の「技術家庭」の先生だったので、初  
めは男子を強制的に集め、ほとんど  
男子だけで「修善寺」をやった。

十六期の岡野さんの時代に演劇部  
に昇格。だんだん女子ばかりになった。  
当時女が男の役をやることを文ちゃ  
んが許さなかったので、女だけででき  
る台本を見つけたのに苦労した。

女だけといえば「制服の処女」は、  
美しい女の先生を好きになる女生徒  
の話。キスシーンがあつて、キスという  
は唇を鯛の吸盤のようにつき出して  
するものだと思つて演技をしたら、皆  
の大爆笑を誘つたこともあつた。

メンバーのその後

●川野公彦 大学はダブって倍行つた  
のでコーチが長かった。今の採用担  
当の仕事で人前で話をする時、昔の  
事が役に立っている。結婚式の司会  
も五十組位している。

●加藤洋一郎 (十六期) 美和ロック(株)  
●岡野ユリ (十六期) 高等部時代から  
劇団四季に出入りしていた。ロイヤ  
ルシェークスピア劇団が来た時、通  
訳として手伝い、それから派生して  
舞台の企画会社に頼まれるようにな  
り、現在は同時通訳が仕事。

●飛田由美子 (十八期) 高校時代は自  
分で脚本を書いて芝居を公演。今は  
小学校の教師。最近地域の催しで娘  
とあの頃やつた芝居をやった。

●林由美子 (二十一期) 朗読の勉強中  
●一色孝子 (二十二期) 学生時代はコ  
ンサートの司会。教育番組のテレビ  
のお姉さんを一年。今も子供の学校  
行事などで司会をしたりしている。

●河崎早春 (二十一期) テアトルエコ  
の養成所を出て、フリーアナウン  
サーと俳優の二足の草鞋をはいて今  
日に至る。朗読の会「驢馬の耳」主  
宰。

私達にとつて強烈な印象を残した  
演劇部での日々が、その後の一人一人の  
人生に何かしら影響を残している。今  
回の企画で懐かしい顔に再会してそ  
う思った。

(二十二期 河崎)



左より、林、岡野、佐藤先生、川野、飛田、一色、加藤、河崎

# 同期会便り

## 三期 同期会

三期 飯村 肇

中等部・高等部合同三期会は、二年ごとに行うことになっていますが、今回は平成十三年十月十三日(土)、十二時三〇分から青学会館の「ナルドの間」で開催しました。

中等部の窪田道二郎・気賀健生・矢部衛先生、高等部の磯田協子・宇佐美邦輔・女屋信夫・香本不苦治・斎藤賢・鈴木正一・田中



登喜・波多江幸枝先生をお迎えし、同期生は百一名が集まりました。この二年の間に永眠された先生、友人たちの霊に参列者全員で祈りを捧げた後、懇親会に入りました。先生方のテーブルの周りにはかつての教え子たちが群がり、久

しぶりに会うことのできた友人同士に話の輪が広がっていました。

年齢も六十歳代半ばになりますと、何を経験しても、何を見ても、既知感・既視感といったものは拭えず、なにかしら寂しい思いをすることがあるのですが、この席上で感じた快い既知感は、まさに同じようにゆったりと、楽しく流れる中・高等部時代の時間そのものでした。

今回は平成十五年十月二十五日(土)の予定です。

## 「第二回 OTTA会」

五期 福田静世

二〇〇二年五月十二日 第二回 OTTA会を開催しました。

OTTA会は五期の三―E(担任太田先生)を中心として、太田先生の授業を受けたことのある人

太田先生に特別にご迷惑をかけた人、太田先生が大好きな人、の集まりです。

第一回は昨年四月、先生の八



十歳をお祝いして開かれました。今回第二回は五月十二日十二時から渋谷駅ちかくのクロスタワービル三十一階のオスロ(北欧レストラン)で二十名が参加して、ビュッフェスタイルの食事をしながら楽しいひとときを過ごしました。

来年第三回が開かれる予定です。

## 「十三期A組 クラス会」

十三期 内田 孟

十三期A組。担任は中村三朗先生。二〇〇二年六月二十三日(土)クラス会開催。

場所は同期F組、伊地知君のお店「たのしみち」。

当日、「さぶちゃん」は都合がつかず欠席。副担任の浅井先生の出席が嬉しかった。運のよいことに、梅雨の合間に不思議な?会が始まった。当然の事、折返点とはとくに過ぎていく。クラス会は、時空を超えるのか、暫くする内に、おばさん、おじさん、中にはおばあちゃん、おじいちゃんもいる。その友の顔が、あの頃の顔に戻る。中等部の、あの頃の顔にである。そして、友には屈託なく話が出来る。小さなグループに笑い声が、右にも左にも起きる。なんて素敵な連中なのだろう。

こんな時、自然とお蔭様でという言葉が浮かんでくる。メイトルもかなり

上がり、「話尽山雲海月情」声も大きくなる。友のことを話し始めると、きりが

ない。

一言でいえば、

お蔭様で有難う。感謝。かな。これが、冒頭の不思議の解である。



散会するにあたり、クラス二同が思うことは、先生にはお年ですので、くれぐれも御自愛くださいませ、又、お会いできます事を楽しみに、「さぶちゃん」のクラスで良かったという、思いである。

## 十四期 同期会だより

十四期 松田百代

桜の開花宣言の出た穏やかなお天気に恵まれた三月十六日(土)五時より十四期同期会が青学会館サフランの間で開催されました。

清水先生、田中俊夫先生、一年時の担任の伊藤いく代先生、山内先生と十四期八十名が集まりました。

会は黒沼さん(C)の司会、野村さん(D)の祈祷、山形さん(E)の乾杯の挨拶、先生方の人生の先輩としてのお



話でスタート。  
今回はクラス対抗同期会ということで松尾(西尾)さん(F)の司会で私達が在籍してた頃についての学校クイズ又年齢を考慮しての教養問題クイズでクラスごと知恵を

しぼりました。ジャンケンゲームでは熱戦が繰り広げられ中井さん(A)が優勝！結果は中井さんの活躍もあってA組が優勝賞品をゲットしD組が最下位、風船割りの罰ゲームでした。

小倉さん(A)による記念撮影、「来年の《緑窓会の日》で会いましょう」  
崎田二〇〇三年《緑窓会の日》実行委員長(F)の挨拶で散会となりました。  
今回、出席されなかった十  
四期の皆様！是非来年はご出席下さい。



おめでとう  
有坂太一君

四十七期の有坂太一君が第五十四回  
広告論文「電通賞」第一部大学生個人  
の部(応募総数二百七編、四十五校)  
で見事、佳作に入賞しました。課題は  
「広告の情緒的機能」。

この賞は次代を担う若者達に広告の  
使命、役割を理解してもらい、若々し  
い視点で提言してもらおうと、株式会  
社電通主催、文部科学省後援で、昭和  
二十四年に始められたものです。  
いままでに論文約九千編、十一万人  
(グループ部門含む)の学生達が応募  
入賞者は学界、マスコミ、実業界で活  
躍中の権威ある賞です。  
有坂君は現在青山学院文学部四年在  
学中。「社会心理学研究会」仁科貞文  
ゼミナール」に所属し、社会心理学、  
広告心理学を研究中。中等部男子テニ  
ス部のコーチの経験もあり、現在の就  
職活動が終われば、コーチに復帰予定。  
若い卒業生の活躍は嬉しいことです。

### 9期 同期会 (還暦を祝う)

日時 2002年10月4日(金)6時30分PM

場所 ホテル ニューオータニ

詳細は後日お知らせ致します。

幹事 永島嘉昭  
松野富久子(福田)

### 『21期セピアの会』

懇親会の二次会ではありませんが、  
恒例、セピアの会、同時開催します。

日時 6月1日(土) 18:00より

場所 渋谷セピア 03-3406-1414

(賞し切りではありません)

### 28期 同期会

日時 2002年6月1日(土) 6:30PM~

場所 東京キャピタルクラブ

渋谷区神宮前2-8-2

Tel 3401-3691

幹事 大森清貴・野口潤子(矢吹)

### 演劇部の同窓会 (佐藤文則先生を囲んで)

7月13日(土) 18:00~

人数の目処がついたところで、改めてご案内いたします。どなたが演劇部だったか今、調べているところですが、自己申告してくださると幸いです。

かわさき さはる  
連絡先 河崎早春

TEL 03-3498-2755 FAX 03-3498-5653  
E-mail saharu@otto-int.com

# 中等部便り

# 事務局便り

# 緑窓会役員名簿

## ★二〇〇二年度人事

- 部長 大村修文
- 副部長 布施英俊
- 教頭 奥津光佑
- 宗教主任 石丸泰樹
- 教務委員長 山本節子
- 指導委員長 朝野圭三
- 教研委員長 千輝克忠

## ★異動

退任 田邊雪恵先生(家庭)  
一九九四年四月より八年間、家庭科教諭として教壇に立たれていました。三月にご都合により退職されることになりました。

## 堀 一人先生(英語)

二〇〇一年四月より中等部・高等部の人事交流で、高等部より中等部英語科教諭として教壇に立たれていました。四月より再び高等部教諭として、高等部へお戻りになりました。

## ★二〇〇二年度より

\*入学試験 二科(国語・算数)・四科(国語・算数・社会・理科)のいずれかを選択する方法になりました。受験生数は二科・四科合計で一〇八五人と、多少減少しました。

\*週五日制 月曜日(金曜日)授業二十時間になりました。中等部へご連絡の時は、ご注意ください。

\*行事精選 週五日制に伴い、いくつかの学校行事が整理されました。春季運動会(五月初旬) 冬季スキー学校(十二月下旬)

毎週火曜日、この事務局に通っていますと一年がとて早く感じられます。三月、四月、ウエスレーホールの横の大きなコブシの木に沢山の白い花が咲きそして花壇の花々のつぼみがふくらみ、桜の花が開く頃、事務局は大忙しです。とくに毎年六月恒例の「緑窓会の日」にむけて、その年の当番の期の方々が最後の段取りにかかります。今年も十三期の歌舞伎俳優の團十郎さんが御多忙にもかかわらず総合プロデューサーを務めて下さり、楽しい催物になると期待しております。

そして又「緑窓」(緑窓会会報)の発行のための諸々の仕事などが一度にきてしまいます。しかし忙しい中で同窓の先輩後輩との交流は大変有意義です。この二年コンピュータも入りましたが、なかなか気が難しく思う様に動いてくれない事もあり、デスクの前には座ってがんばって下さった方々には心からお礼を申し上げたいと思います。そして本当に「お疲れ様」とねぎらいの言葉を送りたいと思います。

今年も又新同窓生が増えます。コンピュータなら任せて、という人が大勢いらつしやると思います。是非お手伝いに来て下さい。毎週火曜日、午前十一時から午後四時まで開いています。皆様の来室お待ちしています。

※今回は会報の発行が早くまりましたので会計報告が間に合いませんでした。次回に掲載致します。 会計係

期	氏名	(旧姓)	期	氏名	(旧姓)	期	氏名	(旧姓)	期	氏名	(旧姓)
1	飯久保 廣嗣	(中村)		木村 敏夫		24	神保 行宏	(福永)	40	山下 晶子	
	岡田 孝子	(宮治)		岸英 英二	(岡)	25	佐藤 久美子		41	栗城 武史	
2	余語 昌長	(野見山)	12	荒井 二葉	(実宝)	26	田部 井浩之		42	森下 亜希子	
	木松 紀子			村井 玲子	(永井)	27	安藤 直道	(海老沢)	43	渡邊 莊吾	
3	高砂 雄一		13	塩坂 光	(杉山)	28	老澤 敦子	(神南)	44	濱本 健吾	
	外崎 良治			中川 健		29	宮部 涼恵		45	高木 麻衣子	
4	三上 義夫		14	黒沼 政弘	(三浦)	30	阿部 寛美		46	古池 律大	
	飯井 肇	(浅生)		山形 百代	(原田)	31	仁科 淳雄		47	篠原 大舞	
5	福井 あや子	(徳永)	15	松田 恵子	(土井)	32	鈴木 昌文		48	石崎 憲太	
	岩嶋 恵美			吉田 とも子	(村上)	33	小田 信也	(林田)	49	加藤 順子	
6	黒板 美瑛		16	伊藤 正道		34	高橋 知也	(鈴木)	50	有坂 奈穂	
	志賀 俊也			大野 恵司		35	藤本 香緒里	(柳)	51	有坂 洋平	
7	三上 信二郎		17	脇田 清男	(村田)	36	榎井 貴子	(大森)		酒井 しのぶ	
	吉川 勝久	(木田)		山田 明男		37	西村 長史	(桧井)		早川 まりえ	
8	豎村 美恵子		18	高口 恒美	(高橋)	38	松吉 寛子	(今井)		鈴木 敦	
	白井 茂	(谷村)		真藤 純一		39	竹沢 美穂	(鹿島)		松本 美帆	
9	白岩 晴美	(谷村)	19	西平 昌邦	(有賀)		竹脇 清子			佐藤 美祐	
	永木 勝美	(山根)		西内 由里子	(木村)		吉野 衣緒	(和田)		坂巻 麻弓	
10	三木 秀雄	(山根)	20	沼田 和美			戸村 大助				
	山本 皓子	(手塚)		坂本 純子			藤本 優子	(松澤)			
11	倉持 博子		21	古野 啓子	(岩崎)		藤本 紀夫				
	磯野 照子	(門田)		高木 那津子	(戸田)		宮永 えり	(清水)			
	鳥居 美智子	(原田)	22	杵家 弘和			関 景介				
	門田 京子	(福田)		寺野 尚子	(佐々田)		能勢 千恵				
	王尾 富久子	(窪寺)	23	富士 均	(秋山)		深谷 隆介				
	松野 嘉昭	(山木)		木村 ゆかり	(飯島)		池谷 幸子				
	中野 凱美	(山木)		富土 眞喜子	(笠原)		矢部 純子				
	今村 和久子	(鴨志田)		新海 潤子			齋藤 克彦				
	梅津 宏子			増田 幹子							
	熊沢 祐子										

※同期会・クラス会等の宛名ラベル出しについて 会の日時が決まりましたら上記の同期の役員を通して緑窓会事務局にお申し込み下さい。